

下北半島西部南西沖における海上音波探査の実施について

平成 25 年 7 月 24 日
電源開発株式会社

当社は、今般、大間原子力発電所に関する追加の地質調査の一環として、下北半島西部南西沖にて海上音波探査を実施することとしましたので、お知らせいたします。

この調査は、平成 24 年 10 月の日本地震学会で新たな知見として発表された「平館海峡撓曲」が分布するとされる付近の海底下の地質構造を詳細に把握する目的で実施するものです。

本調査によって得られるデータについては、これまでに得られた地質調査のデータとあわせて総合的な評価・取りまとめを行います。

当社は、大間原子力発電所の耐震・耐津波安全性に関し、今後も情報を収集するとともに、必要に応じて最新の技術・手法を用いた調査等によるデータの充実を図り、信頼性の一層の向上に努めてまいります。

以 上

【添付資料】

海上音波探査の概要について

海上音波探査の概要について

1. 調査目的

平成 24 年 10 月の日本地震学会で新たな知見として発表された「平館海峡撓曲」が分布するとされる付近の海底下の地質構造を詳細に把握する目的で、海上音波探査を実施します。

2. 調査内容

海上音波探査は、図-1 に示す通り、調査船の船尾に設置した発振器から海中に音波を発振し、曳航する受振器で海底面や海底下で反射した音波を受振する方法により行います。

3. 調査範囲

図-2 に示す範囲

4. 調査期間

7 月下旬より 2 ヶ月程度

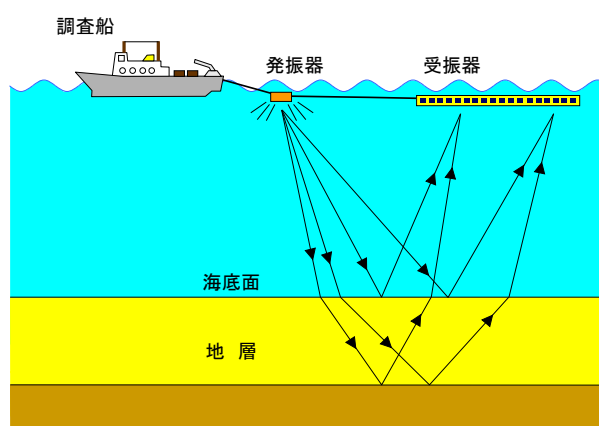


図-1 海上音波探査概念図

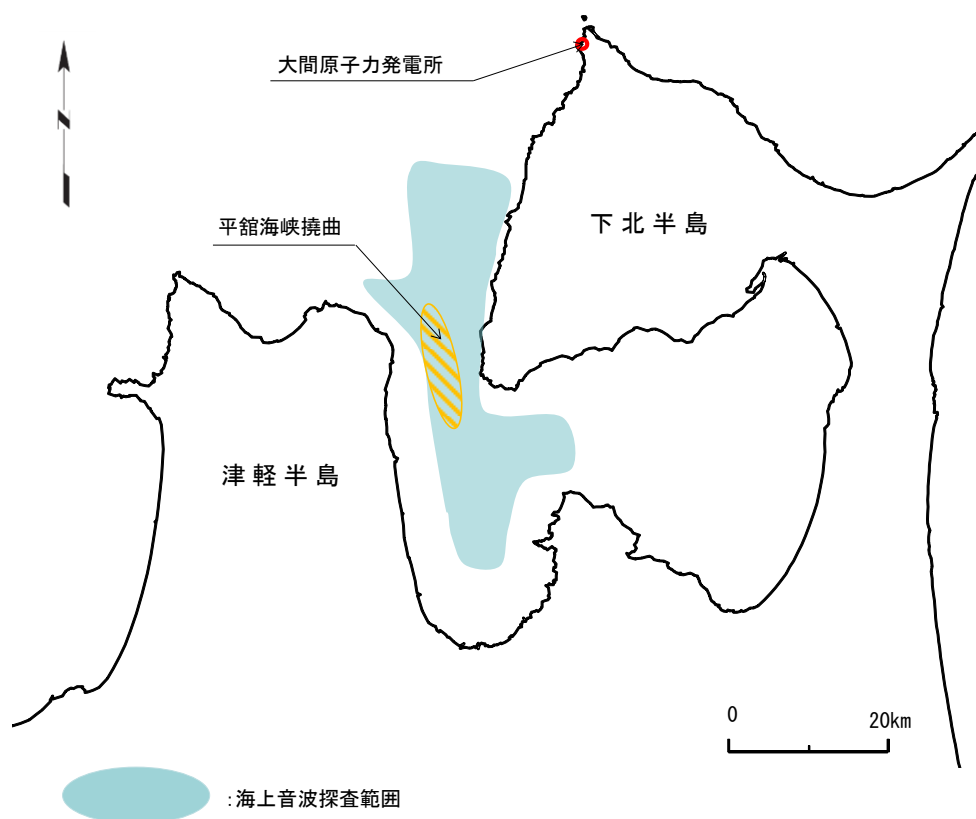


図-2 海上音波探査範囲